



剣道の授業を見学のハロウ校校長夫妻

2013年度 学友会在籍者数および役員一覧

	中1			中2			中3			中学合計			高1			高2			高3			高校合計			総部員数	中学部長	中学副部長	中学マネージャー	高校部長	高校副部長	高校マネージャー
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3							
英語部	9	2	2	13	3	1	3	7	20	(中高一緒に活動)						高1-3	澤田正輝														
演劇部	3	1	2	6	5	3	3	11	17							高3-2	近村直人	高3-3	菅原泰門												
科学部	3	2	6	11	1	3	7	11	22	中3-2	古池悠大							中3-2	岡田智之	高3-2	本橋祐真	高3-2	古川智也								
写真部	3	6	3	12	2	2	0	4	16	(中高一緒に活動)						高1-1	山口晃南														
吹奏楽部	5	3	6	14	5	15	8	28	42	中3-1	小島正吾							高2-2	新井優志	高2-3	三井智広										
数理研究部	11	10	2	23	7	2	9	18	41							中3-3	日比野哲也														
生物部	2	1	3	6	2	6	1	9	15	中3-2	安藤啓佑							高3-1	横尾一壘												
聖ポ一口会	0	0	3	3	0	0	0	0	3							高3-3	大平祐貴	高2-2	珠村 智	高2-1	谷口 涼										
地歴研究部	8	0	3	11	5	0	4	9	20	(中高一緒に活動)						高3-1	玉井雄也	高3-2	東田駿太郎												
天文部	3	2	0	5	0	5	2	7	12							高3-1	藤原周也	高2-2	松田直樹												
美術部	5	2	3	10	3	7	0	10	20	(中高一緒に活動)						高2-3	田中 匠														
文芸部	1	0	0	1	0	5	0	5	6	(中高一緒に活動)						高2-3	細淵一史														
放送研究部	3	14	0	17	2	1	1	4	21	(中高一緒に活動)						高3-1	村山裕也														
クワイアー	0	1	0	1	8	2	6	16	17	(中高一緒に活動)						高3-1	樋口拓也														
合計	56	44	33	133	43	52	44	139	272																						
(アコライト)	1	6	3	10	4	1	1	6	16	中3-2	橋本孝輔							高3-3	笹瀬聖人												
剣道部	4	4	6	14	4	1	1	6	20	中3-1	小宮秀人							高2-2	近藤祐一												
ゴルフ部	5	10	9	24	15	1	9	25	49	(中高一緒に活動)						高3-3	佐藤正晴	高3-2	綾部雄太	高3-3	前田航希										
サッカー部	20	17	16	53	14	12	3	29	82	中3-2	大塚郁哉	中3-1	御手洗泉希 中3-1 松本莞爾	中3-3	須原史寛	高3-3	鈴木萌斗	高3-3	古角優弥	高2-3	小長井啓太										
山岳スキー部	5	4	5	14	3	1	2	6	20	中3-2	小川ルーク	中3-2	伊藤拓美	中3-1	松葉湧之	高3-2	関口 駿	高3-3	萩田 遼	高3-3	萩田遼(副部長兼任)										
水泳部	10	4	5	19	8	6	7	21	40	中3-2	黒田大貴	中3-1	雨宮大河 中3-2 丸山峻輝							高3-2	中津力丸	高3-3	浅野友軌	高3-3	佐橋瑞樹						
卓球部	14	4	7	25	6	0	9	15	40	中3-2	清水雄貴	中3-3	関矢拓光	中3-3	星龍之介	高3-1	浮谷優寿斗	高3-2	菅谷大輔	高3-1	各務颯斗 高3-2 高橋謙人										
庭球部	14	15	19	48	9	15	17	41	89	中3-3	生松利基							中3-1	田内 誠	高3-3	戸澤 陸	高3-1	伊藤宏一郎	高3-1	津久井健斗 高3-2 冨塚優斗						
バスケットボール部	17	19	17	53	7	5	7	19	72	中3-2	渋谷亮太	中3-1	大川将輝 中3-3 仁科陽介	中3-2	馬越太郎 中3-3 田村友希	高3-1	渡辺敬之	高3-3	宋 容賛	高3-2	田口颯太 高3-2 早部雄貴										
野球部	16	22	9	47	11	19	8	38	85	中3-3	高橋嶺一	中3-2	草刈耕平 中3-3 新倉大輔							高3-1	内海大祐	高3-1	柿澤健太	高3-3	林 慶吾						
陸上競技部	6	6	9	21	14	8	6	28	49	中3-1	毒島空良	中3-3	加藤悠大	中3-2	中田昌輝	高3-1	桜田貴大	高3-3	小杉山諒一	高3-1	小杉 岬生										
釣り同好会	2	2	2	6	3	0	1	4	10	(中高一緒に活動)						高1-1	早川風海	高1-1	中島 文												
合計	113	107	104	324	94	68	70	232	556																						
総計	169	151	137	457	137	120	114	371	828																						
在籍生徒数	152	138	133	423	143	122	128	393	816																						

※ アコライトは合計数に含まない。兼部している生徒あり。

英国のパブリックスクール ハロウ校から校長夫妻来校

去る五月三十日、英国のパブリックスクール(全寮制の私立中等学校)として名高いハロウ校より、Headmaster(校長)夫妻が来校しました。

立教池袋高校からも、英国語学研修に毎年二十名ほどの生徒が参加し、この五百年ほどの伝統を誇るジェントルマン育成機関での生活を体験しています。ロンドン中心部から地下鉄で三十分ほどの郊外に位置するとは想像できないほどの豊かな緑に恵まれ、羊が草を食む姿も見られる小高い丘(Harrow-on-the-hill)に佇む学校の雰囲気は、我が立教池袋のそれに似ている点も少なからずあります。

ご夫妻は、授業をはじめ新しくなった我が校の施設と、そこで行われている活動を興味深く視察。生徒と教師の濃密な関係性を構築できる少人数教育は、ハロウ校の教育理念とも相通するものがあるとのことでした。

また、図書館の英語コーナーにも目を留め、「これは授業外でも英語力を伸ばしたいと希望する生徒にとって非常に有用な財産(asset)である」との感想を持たれたようです。ぜひ、「易しいものをたくさん」という、基礎力を身につけるための教材も豊富に用意されているので、生徒諸君のさらなる利用をこの場を借りて期待します。

英国語学研修には、日本

の一つの高校からの参加としては本校からの生徒の数が群を抜いており、このことにも感銘を受けている。立教池袋とは、校風の類似性ということもあり、特別な(exceptional)関係にあるので、今後とも交流を深めることができるといってお互いの夢を確認できるよい機会となりました。

今年度の英国語学研修プログラムについては、次号特大号にて報告します。

CCESよりお喜様

六月六日(日)より二十日(日)の二週間、交換プログラムを行っているCCES(米国サウスカロライナ州)から引率のJames Mills先生はじめ四名の生徒(Sean Roland君、Benjamin O'Brien君、Stephan O'Brien君、Stephan Schmitz-Justen君)が本校に短期留学しました。

期間中は、本校生徒役員君(高三)、井上君、尾谷君(高二)、高橋君(高一)の各家庭にホームステイし、各メンバーのホームルームで本校生徒とも交流を深めました。さらに、相撲の高砂部屋の見学や京都・奈良など関西方面への小旅行で日本文化への理解を深めたようです。

今後とも日米の架け橋としてのこのプログラムのますますの発展が期待されます。生徒諸君も臆せず、春休みのCCES短期留学に参加し、また、ホームステイのホストを経験することにより、立教と日本を伝えたいと思えます。

学友会活動戦績

- 中学校ゴルフ部
 - 関東中学校ゴルフ選手権団体の部(六月十四日・大宮国際CC)に出場し、二年連続優勝をしました。また、この結果、全国大会(三重白山ゴルフコース・八月七・八日)に六年連続の出場が決まりました。
- 団体戦 優勝
 - 塚本 岳(三年)
 - 青木公翼(三年)
 - 樋口 匠(三年)
 - 吉田圭吾(二年)
- 高等学校ゴルフ部
 - 東京都高等学校ゴルフ選手権春季大会(六月三日)：取手国際GC)に出場し、次の結果、関東大会(那須野ヶ原CC・七月二六・七日)に出場が決まりました。
- 個人戦Bブロック
 - 第11位 森川治門(二年)
 - 第13位 鶴田宙大(二年)
 - 第15位 小島翔太(二年)
 - 第17位 佐藤正晴(三年)
- 団体戦Bブロック
 - 第三位 森川治門(二年)
 - 小島翔太(二年)
 - 佐藤正晴(三年)
 - 前田航希(三年)
 - 鶴田宙大(二年)
- 高校水泳部
 - 東京都高等学校選手権水泳競技大会(六月二二・三日)：町田市立屋内プール)に出場し、次の結果、関東高等学校選手権水泳競技大会(七月二二・四日)：川口市青木町公園プール)へ出場が決まりました。
- 男子200m自由形
 - 第五位 山野哲平(二年)

中学一年便り

パンチを打つ

ある辞書作りを題材にした本をきっかけに広辞苑を手にとった。開けば新品同様手垢もついていない。規則正しく並んだ言葉を眺めながらめくっていった。

ふと、「一を落とす」、「一を弾ませる」、「秋の一」といった用例が目が留まった。見れば「声」の説明で音声、意見、季節・時期が近づく気配、などと書かれている。同じ言葉でも用例の違いの面白さに今更ながら気づく。続いて、適当にめくっていき「一」を探し、「一」に当てはまる言葉を他の用例から考える、という遊びを始めた。意外に面白い。

言い換えれば、ある数が素数(1と自分自身でしか割り切れない数)でないことを判断するのと似ていて、地道に条件を満たすかのチェックをしていかなければわからないのである。格闘ゲームで言うところの大技は出せないけど、強パンチや強キックだけで攻め続けて結果を出すことに近い。辞書遊びはナ行で終わった。

さて、これからの夏休み、それぞれが部活にキャンプと様々な予定はあるだろう。その中で思ったようにいかず、イライラすることもあろう。大技は出せなくとも、地道にパンチを打ち続けることが大切である。その努力はいつか結果として表れるはず。

「継続は力なり」これから積み重ねていくきっかけとなる夏を過ごしてほしい。また、夏休みが明けて成長した姿を見られることを楽しみにしている。

(伊藤 俊)

中学二年便り

戦う年

楽天イーグルスの元監督野村克也氏は、就任当初、三年かけてチームを作る方針を語っていた。「作る年、戦う年、勝つ年」の言葉は記憶に残っている。二年目には最下位を脱出し、初のリーグ4位に押し上げた。

三ヶ年計画という話はよく聞く。もしも中学校生活に置き換えるならば、一年目は学校生活の基礎を「作る」年、二年目はがむしやらが求められる「戦う」年、そして三年目は成果をつかみ取る「勝つ」年ということになるだろう。ことに、中学二年生にとっては戦うことが「キモ」らしい。探求する、夢中になる。立教生らしさが放たれる年である。

私自身、中学時代はバスケットボールに明け暮れた。市内優勝にもほど近い弱小チームだったが、人生で初めて夢中になれるものを見つけた。

戦うのは「相手」とだと多くの人が思う。当然、相手に勝つために練習するし、目標にもなる。だが、スポーツに限った話ではない。生き方に夢中さを見出すことである。そして、自分の中で起こる様々な感情と戦い、それを乗り越えることを経験すること。それが大事なのである。短期的には「勝つ」前期、「戦う」中期、「勝つ」後期というステップがきつとあるのだから。戦いの中の戦いが間もなく始まる。

この夏、がむしやらな者にしか現れない特別な輝きを放つて欲しい。その先には成果をつかみ取る舞台が待っている。

「強く、雄々しくあれ。」
ヨシユア1章6節
(吉田清典)

中学三年便り

総点検の夏に

校外学習での作文などを読んで、漸く現中三の生徒一人ひとりへの理解が進んだ。文は人なり、性格・嗜好の一端は垣間見ることができた。永く生徒の作品に接していると、物の見方や考え方の違いの面白さ、好悪の物差しや美意識といったものさえスルも異なるのかといった驚きの場面に遭遇する。これぞ国語教師の醍醐味、喜びの瞬間でもある。反面、上っ面を撫でただけのものや一本調子で工夫の足りないものに出会うときも……。

別に書きたくもないのに強制されてやらされているんだから提出さえすれば十分だと考える向きやセンスや才能がないからと始めからブレイキを踏んでいる人もいるのかな。でも、それって大きな考え違い。同じ提出をするのなら、少しでも納得のいくもの、より上質のものを準備する。たった一度の、やり直しの利かない人生なんだし……。

「そんな大袈裟なことを」と言うな。昔から「習性」として生まれつきの性質と化されて生まれつきの性質となる、と言われている。中三の夏、今までの振り返り、今の自分がこれであるのかと総点検してみよう。如何。仮に、遅刻が多い、整理が不得手、計画的な学習が苦手というのなら、十五歳の今なら改めることも十分可能。心構え、心掛けで人生結構変わってくるもの。

「何で教訓じみたお節介を言うのか」って、だって国語教師は諸君らを幸せにするのが仕事だからだよ。
(猿子 和夫)

高校一年便り

論文について

手つかずの夏休みが目の前に待っているのが中高生にとっては一番いい時期かもしれない。一方で、高校三年生は卒業論文に取り組み夏、であるし高校二年生にとつては卒業論のテーマを考える夏になる。

一般に論文には「問い、主張、論証」の三つが必要だといわれる。卒業論においてテーマが重要だとはよく言われる話で、テーマ選択の際に問いが設定されていなかったり、そもそも答えのない問題(この世にはそんな問題だってある)を選んだら、今、後悔している高校三年生も多いかもしれない。

明確な問いに対し、自分で解答し(主張し)、他者の論に助けられながら論証していく。このどれが欠けてもうまくはいかない。

高校一年では五月にキャリア学習を体験した。自分が何者なのか、そして将来、社会に出てどのように役に立つ人間になっていくのか。あまりにも漠然としている「将来」の部分と、高校になった難しかった学習との狭間で茫然としている人も多いかも。復活か止まれる時期がやってくる。焦って追いまわされた前期を振り返り、自分は何者で、いま何をすべきか、何が必要なのかを問い直してほしいと思う。

自分に対する明確な「問い」なしにはどのような主張も、論証も生まれません。
(高橋 整)

高校二年便り

意味がない?

「こんなこと意味がない」と、よく耳にすることがある。勉強をしているとき、もしくは自分の意に反する行為をしているときに、こんなことを言いたくなるのかもしれない。

では、どのようなことであれば「意味がある」のか。自らの成長を実感することか。「意味がない」と切り捨てて捨てる前に立ち止まってみてほしい。

学校生活に目を向けてみると、あらゆる場面には意図がある。それは、確かに皆の意志とは別の視点から動いているものかもしれない。皆の言うところの大人の都合かもしれない。だからこそ、なぜなのかと思考をめぐらせてほしい。決して安易に決定されていることはひとつもないからである。学習も同じ。なにを学ぶ必要があるのか、学校の中でだけでなく、長い間広く社会で議論が続けられて精選されたものが、皆が学習する内容なのである。

それに、現在の自分について推し量ることはできるが、明日や来年、将来の自分を予知することはかなり難しい。どこにいつかの自分を育てるための種や土があるかわからない。本当に意味がない?と自分自身に投げかけてほしい。

夏は、ほおとして逃げたい。あつという間に逃げていってしまう。皆にとつて、いつかの糧となる夏になりますように。
(正村多佳子)

高校三年便り

パイオニア先駆者、開拓者

日本の野球は、大リーグには通じない、日米親善野球で対戦してみてもそれは明らか、といったムードを打破したのが野茂投手だと思えます。

戦後、敗戦国日本は世界と渡り合える、ことを科学の世界で示したのが湯川博士のノーベル物理学賞受賞でした。

パイオニアの存在は偉大です。ここから伝統が生まれてくるのかもしれない。今春卒業した副島君も本校にとつてはパイオニアになったと思います。彼はひとり孤高の存在ではなく、同級生と机を並べて同じ問題に取り組んだり下級生に早朝化学の講義をしたりもしました。その結果一緒に学んだ者たちが何となく、

難関校のレベル、世界へのレベルといったものを感じ取れたのです。そして、自分でもできるじゃないか、という自信にもつながったようです。

今春の卒業生で受験組が予想を上回る好結果を出せたのもパイオニアの出現が大きいと思います。

そういった意味で現高三の皆さんも自信をもって真剣に学んでほしいと思います。今ここでやっているレベルは、決して井の中の蛙ではなく、世間にも充分に通じるものであるからです。

運動方程式で加速度が変位の二階微分で与えられる(大学で学ぶことになる)ことを知るにより、運動解析の理解が飛躍的に進みます。高三の学習では、この飛躍的な知的興奮をぜひ味わってほしいものです。
(宇津木千秋)

十 今月の聖句

「ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。『神の国は、見える形では来ない。』『どこにある』『あそこにある』と言えぬものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。』」
(コヘレトの言葉11章6節、9節、12章1a)

先日、ある学年の学年礼拝で、「自分の『やる気スイッチ』はどこにあるのか教えてください」というお祈りをした生徒がいました。とても面白いと思ったので、聖書のこの箇所を紹介しました。

「やる気」に限らず、わたしたちを取り囲むほとんどの物事は目に見えたり、手で触れたりすることができないものです。しかしそれは確かに存在しており、何らかの形でわたしたちの生活に関わっています。この聖句がわたしたちに告げるのは、この世界の究極の目的である「神の国」です。見える形では来ず、また場所を示すこともできないというのですが、しかしそれは「あなたとわたしの間」にあるのです。この学校の生徒として、一人ではなく「みんな」と共に学んでいることは大きな恵みです。

夏休みになり、今までのような形で学校に集まることからしらば離れた生活になります。この時に、「わたしたちの間」にあるものは何かを考えてみることは意味があるのではないのでしょうか。